

# 社会福祉法人若葉会 令和元年度事業報告書

## 社会福祉法人若葉会 基本的な考え方

私たちは、地域の児童・高齢者の皆さまのより良い生活の実現を目指し、時代の流れの先にある私たちにしか担えないこと、私たちだから挑戦しなければならないことを適時・的確に捉え、自立した地域社会の一員としての自覚と、幼児教育と福祉サービスの先駆者としての誇りを持ち、果敢に提言、実践を行い地域の幼児教育と福祉の向上を図ります。

### 1. 法人の概要

#### (1) 施設並びに事業

保育所型認定こども園 わかば保育園

病後児保育事業：子育て支援拠点事業

小規模保育所 わかば保育園

塩沢金城わかば児童館

放課後児童クラブ 金城クラブ

放課後児童クラブ わかばクラブ

放課後児童クラブ 牧之クラブ

塩沢デイサービスセンター ゆきつばき

総合施設 ゆきつばき

居宅介護支援事業所 ゆきつばき

雲洞グループホーム つばき園：併設：認知症対応型デイサービスセンター

#### (2) 役員

別紙（法人役員名簿参照）

#### (3) 職員数 94名（常勤45名、非常勤・パート41名、金城学園兼務者8名）

#### (4) その他

姉妹法人 学校法人 金城学園

### 2. 事業の概要

#### (1) 各施設管理者の育成

#### (2) 各施設の事業計画に基づく事業の遂行

#### (3) 職員研修並びに育成

### 3. 財務の概要

#### (1) 令和元年度計算書類参照

資金収支計算書：事業活動計算書：貸借対照表：財産目録

### 4. 本年度の主な施設整備

#### (1) ゆきつばき隣地購入並びに駐車場・園庭整備

#### (2) ゆきつばき車庫整備（理事長寄付事業）

### 5. 監査報告

#### (1) 監事による監査報告

以上

## 社会福祉法人 若葉会 理事・監事名簿

任期 令和元年 6 月 17 日から

就任後 2 年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会終結まで

令和元年 6 月 17 日

役職	氏名	職業・役職名・職歴
理事長	角谷 正雄	幼保連携型認定こども園 金城幼稚園・保育園園長 南魚沼市教育委員
理事	角谷 教恵	幼保連携型認定こども園 金城幼稚園・保育園 保育園長 塩沢金城わかば児童館館長
理事	大平 梨花	保育所型認定こども園 わかば保育園長
理事	岩田 拓	塩沢〒イビセンターゆきつばき 施設長
理事	南雲 武仁	雲洞〒イビセンターつばき園 施設長
理事	岡田 稔	東京福祉大学 教授 元 宮城県介護福祉士会長
監事	桐生 厚義	桐生司法書士事務所長 (福)雪国ボランティア苦情第三者委員
監事	阿部 淳	(株)雪国リゾートインフォメーション代表取締役 (株)喜太郎商店代表取締役
監事	八木 三男治	元 小学校長 元 主任児童委員

## 社会福祉法人 若葉会 評議員名簿

任期：平成 29 年 4 月 1 日から

就任後 5 年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会終結まで

平成 29 年 4 月 1 日

役職	氏名	職業・役職名・職歴
評議員	高野 信義	金沢屋酒店会長 元 塩沢町議会議員 元 南魚沼福祉会理事
評議員	須藤 利春	ｽｯｸﾞﾙｽﾞ店会長 元 塩沢町商工会理事
評議員	小林 英樹	小林整骨院院長
評議員	桑原 博	桑原織物社長 主任児童委員 塩沢地区青少年健全育成会会長
評議員	洲崎 裕子	元つむぎの里役員 塩沢地域育成会役員 元 金城幼稚園 PTA 副会長
評議員	山田 浩史	社会福祉法人 清栄会 群馬県社会福祉協議会評議員 前橋市社会福祉協議会理事
評議員	高野 武彦	南魚沼市社会福祉協議会会長
評議員	貝瀬 幹夫	南魚沼市民生委員・児童委員

# 令和元年度 社会福祉法人若葉会 年間事業報告

項 目	内 容	テ ー マ	
基本的な考え方	私たちは、地域の児童・高齢者の皆さまのより良い生活の実現を目指し、時代の流れの先にある私たちにしか担えないこと、私たちだから挑戦しなければならぬことを適時・的確に捉え、自立した地域社会の一員としての自覚と、幼児教育と福祉サービスの先駆者としての誇りを持ち、果敢に提言、実践を行い地域の幼児教育と福祉の向上を図ります	誇りと絆	
目 標	職員「着実な歩み(キャリアパス)」	「自分の仕事に誇りを持つ」	
	環境「地域ニーズを先取りした環境をつくろう」	「同僚との絆を深める」	
年度基本方針	1 自己点検・自己評価による各施設職員の資質向上による「誇りと絆」育成とキャリアパスの実践	具体的な方策を考え実行する 自分達の良いところ再発見	
	2 職員の確保と子育て支援事業の充実、病後児保育の確立	わかば	
	3 小規模保育の着実な運営	小規模わかば	
	4 金城とタイアップした子育て支援事業の充実	児童館	
	5 3クラブの安定した運営	放課後児童クラブ	
	6 地域から頼りにされるデイサービス運営と土地購入並びに利用	ゆきつばき	
	7 地域から頼りにされる居宅と新人職員の育成	居宅ゆきつばき	
	8 利用者のための付加価値の追求と地域ニーズの再確認	総合事業ゆきつばき	
	9 運営改善計画+柔軟な職員配置：GH2ユニットの運用と共用デイの充実	つばき園	
	10 厨房の効率化と楽しい食事の在り方検討	調理部門	
	11 本部事務局の充実(事務の効率化)	事務局	
	内 容	担 当	
年間事業報告	4月 新入職員歓迎会	各施設	
	5月 本部事務局改修工事 音楽コンサート	金城	
	6月		
	7月 自己点検・自己評価 職員採用説明会+試験	各施設 事務局+各施設	
	8月 合同職員研修旅行 職員採用説明会	事務局+各施設	
	9月		
	10月 運動会 合同職員採用試験	金城・わかば 事務局+各施設	
	11月 合同職員採用試験	事務局+各施設	
	12月 自己点検・自己評価 合同忘年会		
	1月		
	2月 金城学園・若葉会合同職員研修	ゆきつばき+金城	
	3月 歓送別会(コロナ対策のため延期)	事務局	
		内 容	対 応 策
	結 果	・保育所関係は小規模わかば保育園を除いて順調に推移したが、3月から新型コロナ対策により補助金等の減額となった。小規模保育所はわかば保育園からの応援により対応することができた。	・新型コロナ対策を続ける ・R2年度はわかば並びに小規模も定員減で実定員に合わせて対応
・放課後児童クラブも順調に推移したが、3月から新型コロナ対策により小学校休校による午前中の保育は職員配置に関して(学法)金城学園からの応援により対応することができた。		・新型コロナ対策を続ける ・学法金城学園からの応援と塩沢小学校の介助員を臨時採用で対応	
・ゆきつばき関連は土地取得と整地並びに寄付金による駐車場の整備を行うことができた。 ・開設16年目となり施設の老朽化で設備等の入れ替えの必要性あり		・新型コロナ対策を続ける ・各種補助金を申請中。R2年度車両入替予定(2台)	
・つばき園関係は、GHの入居者の遅れにより半年間で1,800万円の収支マイナスとなった。他施設からの繰入金・借入金と金融機関からの運営費借入等で対応した。		・新型コロナ対策を続ける ・入居者を定員まで入居する ・無駄のない職員配置	
・本部事務局について、法人全体の運営・計画・報告等できていることと、中期計画の策定や規則等の理解しきれていない部分がある		・社福法人としての法体系の理解を図る ・無駄のない職員配置と協力体制	

令和元年度 社会福祉法人若葉会 施設別 年間事業報告

施設名 ( 保育所型認定こども園わかば保育園 )

項目	内 容		具体的方策
基本的な考え方	私たちは、地域の児童・高齢者の皆さまのより良い生活の実現を目指し、時代の流れの先にある私たちにしか抱えないこと、私たちだから挑戦しなければならないことを適時・的確に捉え、自立した地域社会の一員としての自覚と、幼児教育と福祉サービスの先駆者としての誇りを持ち、果敢に提言、実践を行い地域の幼児教育と福祉の向上を図ります		福祉サービスの先駆者としてキャリアの向上を図りより良い福祉の提供に努める豊かな地域社会と自然を生かした保育と子育て拠点の事業所として定着を図る
理念	家庭や地域社会、姉妹園や若葉会関連施設と連携を取り、一人ひとりが自己を十分に発揮しながら活動出来る環境を用意、乳幼児の健全な心身の発達と家庭における子育て支援を図る		
項目	内 容	具体的方策	評価・反省
年度基本方針	1 保育理念・保育目標の理解と取り組み 保育と行事のつながりを考えた計画と実践	生命の保持（健康管理や事故に対する予防）を行いながら健全な心身の発達を促されるような、自己を十分に発揮できる遊び環境や生活環境  保育と行事のつながりを考えた計画と実践	環境衛生に努め、感染症対策ができ欠席者も少なかった また、園での遊びの環境についてマンネリにならない改善の話し合いを持ち実践につなげた  年間指導計画を実践する中で、子どもの状況踏まえ振り返り、子どもたちの成長変化を行事等で表現できる指導が死できるようになってきた。
	2 保育に活かせる計画の立案と実践の充実	書式の連続性に従い情報収集、分析および課題設定を行い、長期的・短期的計画の見直しをする  小学校へ繋げる保育・教育を展開と記録の充実	年間・月間の指導計画を活用し、発達に対して指導できているか会議等で見直しを図っている
	3 人材育成と職員の資質向上	キャリアアップシートの活用と精査 職員が学びたい研修内容を立案実施をし保育へ活かせる連続性を確立する 定められた時間内に効率よく出来る仕事方法や環境を考え職員間で意識し実践	保育指導での困り感に対して職員一人一人が解決できる研修の取り組み日ごろの保育で実践していた
	4 地域に根差した園の取り組みのPR	周辺の田んぼや畑作業の見学を通し交流を深める 地域の清掃活動を実施 地域の方と考える防災予防（消火訓練の呼びかけ）	マンネリ化により活動を忘れがちだった
その他計画と目標	数 値 目 標	実 績	
	年間平均在所率	H30年度 89/95人 94% R元年度 84/95人 85%	入園児の増加に対しての職員体制が取れず途中入園者を断る事になった 職員配置を行い、途中入園者に対応したい
	病後児保育事業	H30年度 2人 R元年度 0人	年間を通し准看護師を置き対応をしていたが、問い合わせも少ない現状だった 宣伝方法を変え利用者の増加につなげたい
	一時預かり事業 余裕活用型	H30年度 76人 R元年度 83人	里帰り出産の対応をすることで利用者の要望に応えられた
地域子育て支援事業	H30年度 336人 相談件数 48件 R元年度 231人 相談件数 20件	コロナウイルス感染症対策のため3月中止をした影響が出た 相談の支援事業を宣伝し対応していく	
事故報告	件数	内 容	対 策
	5件	1歳児男児 左ひじ脱臼 天井からのつるし玩具に手を伸ばし他児と接触した際押されひじを脱臼	遊び道具の取り入れ方の見直しと人数に対しての遊びのスペースの確保
		4歳児女児 下唇の打撲と切り傷 部屋の入り口でカーテンのよる死角ができ他児と接触	部屋の入口カーテンを固定する
		3歳児男児 左上前歯を欠かす 水道付近でバランスを崩し水道台に接触	水道場のマットを滑らないマットへ変更
		1歳児男児 上唇小帯裂傷 ホールで走り転んだ際手が出ず口を床にぶつける	気持ちが高まった走りになった時のこどもに注意するよう指導 転倒した際の体のかばい方など指導
4歳児男児 下唇と上前歯の打撲 テーブル設置の部屋で走りバランスを崩しテーブルの角に接触		狭い場所では走らないというルール徹底 人数が多い時の環境の見直し	
苦情申立	0件	なし	なし

令和元年度 社会福祉法人若葉会 施設別 年間事業報告

施設名 ( 小規模保育所わかば保育園 )

項目	内容		具体的方策
基本的な考え方	私たちは、地域の児童・高齢者の皆さまのより良い生活の実現を目指し、時代の流れの先にある私たちにはしか担えないこと、私たちだから挑戦しなければならないことを適時・的確に捉え、自立した地域社会の一員としての自覚と、幼児教育と福祉サービスの先駆者としての誇りを持ち、果敢に提言、実践を行い地域の幼児教育と福祉の向上を図ります		
理念	家庭や地域社会、姉妹園や若葉会関連施設と連携を取り、一人ひとりが自己を十分に発揮しながら活動出来る環境を用意、乳幼児の健全な心身の発達と家庭における子育て支援を図る		
項目	内容	具体的方策	評価・反省
年度基本方針	1 保育理念・保育目標の理解と取り組み	<p>生命の保持（健康管理や事故に対する予防）を行いながら、健全な心身の発達を促せ、自己を十分に発揮できる遊び環境や生活環境を整える</p> <p>心身共に明るく、思いやりや気配りができ、自ら考えて行動が出来るように保育者がお手本となり、保育に携わる</p>	<p>環境衛生に努め、感染症対策ができ欠席者も少なかった</p> <p>また、園での遊びの環境についてマンネリにならない改善の話し合いを持ち実践につなげた</p> <p>日ごろの生活のなかで保育目標を意識していることを職員が自ら手本となっているよう心掛けた</p>
	2 人材育成と職員の質の向上	<p>キャリアアップシートの活用と精査</p> <p>職員が学びたい研修内容を立案実施をし保育へ活かせる連続性を確立</p> <p>定められた時間内に効率よく出来る仕事方法を職員間で意識し実践</p>	<p>保育指導での困り感に対して職員一人一人が解決できる研修の取り組み日ごろの保育で実践していた</p>
	3 地域の社会との関わりを深める	<p>介護施設職員との連携（急病時や緊急事態に職員間での連絡を密に行う）</p> <p>地域の方と考える防災予防（消火訓練の呼びかけ）</p>	<p>ゆきつばき居宅職員や総合事業職員と緊急時対応など定期的に話し合い、いざということに備えられた。</p>
新規事業計画	介護施設との新規事業	新規事業（総合事業）を行う中で介護施設職員との連携の在り方を精査	購入した畑や園庭の場の環境整備を一緒に行ったり、総合施設職員との行事での連携を積極的に行えた
目標と成果	数値目標	実績	来年度へ向けての方策
	年間平均在所率は100パーセント	<p>利用定員 15人</p> <p>年間平均在籍率 70%</p>	<p>年度末最終14人まで受け入れられた</p> <p>途中入園者対応として連携施設の認定こども園わかばの保育補助職員を兼務させ対応できた</p>
事故報告	件数	内容	対策
	2件	<p>0歳児男児 後頭部打撲</p> <p>アスファルト上で座って遊び中他児に押され転び後頭部を打つ</p> <p>1歳児男児 上唇 上唇小帯切り傷</p> <p>遊具から遊具への飛び移りの際顔面を打つ</p>	<p>子どもが動き回っても危険のない敷物を敷く</p> <p>危険な場所とジャンプしてよい場所を子どもに伝える また、職員の配置位置を危険な場所に応じて動けるよう声掛けをする</p>
苦情申立	0件	なし	なし

令和元年度 社会福祉法人若葉会 施設別 年間事業報告

施設名(わかばクラブ・金城クラブ・牧之クラブ・塩沢金城わかば子育て支援センター・塩沢金城わかば児童館)

項目	内 容	具体的方策	評価・反省
基本的な考え方	私たちは、地域の児童・高齢者の皆さまのより良い生活の実現を目指し、時代の流れの先にある私たちにしか担えないこと、私たちが挑戦しなければならぬことを適時・的確に捉え、自立した地域社会の一員としての自覚と、幼児教育と福祉サービスの先駆者としての誇りを持ち、果敢に提言、実践を行い地域の幼児教育と福祉の向上を図ります	児童館の事業目的・運営・方針を理解・共感して子育て支援事業・放課後児童クラブの運営を行い、第三者評価受審の準備を整えることを通して、児童館の仕事に誇りを持ち、同僚との絆を深める。	
理念	児童館活動および子育て支援拠点事業を通して、家庭や地域社会及び姉妹園関連施設と連携を図り、子どもたちに健全な遊びを与え、健康増進と情操の涵養を図る		
	一人ひとりの児童がこれからの長い人生を生きる勇気・知恵・やさしさを持てるよう、放課後児童クラブにおいて直接的基本的な体験をさせる。		
年度基本方針	1 “児童館”としての事業目的・運営・方針の理解	教職員間の共通理解および協力体制を確認しつつ、月一回日曜日に児童館行事を開催する	地域や利用者は何を求めているかを毎回検討して行事を運営することで、共通理解と協力体制は確立できた。3月は新型コロナウイルス感染予防対策のため学童フェスティバルを中止せざるを得ず残念だった。
		地域の子育て支援事業利用者のニーズに応えられる魅力ある施設となるように、館内環境設定を整え、維持する	リピータの定着により安定した利用者数で推移していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、3月は準備していた講座を中止せざるを得なかった。
		学童期の児童にふさわしい保育環境を整え、安定した生活を送れるようにする	通常の保育で必要な遊具や備品は整えられていたが、小学校の臨時休校による放課後児童クラブで一日保育を実施した際には、感染予防対策のための環境設定に苦慮した。
		小学生と乳幼児の触れ合いの機会を広げ、お互いに理解を深めることができるようにする。	自由来館の乳幼児と放課後児童クラブの小学生が、譲り合いながら適宜交流して遊ぶことが日常化していた。年度末は感染予防のため交流が途絶えてしまったのが残念である。
	2 職員の資質や能力・良識の向上	子育て支援事業担当者および放課後児童クラブ指導員・指導員補助の役割分担を明確にし、円滑な連絡協力体制を確立する	日頃から円滑な連絡協力体制を確立すべく心掛けてきたことが、年度末の新型コロナウイルス感染予防対策による混乱の際には役立った。
		ママズカフェを月一回開催するなど情報収集に努め、地域の利用者のニーズに合った魅力ある子育て支援事業を実施する	ママズカフェでいただいたご意見をもとに、利用者のニーズを反映した育て支援事業を実施した。子育て支援講座は年度末に休止せざるを得なかったが、育児お悩み相談は継続した。
		放課後児童クラブ運営指針に基づく、質の高い学童保育を目指す	チャレンジタイムや学童フェスティバルでは、上級生を中心に、子どもたちが見通しをもって主体的に準備に取り組んでいたため、中止となり残念であった。
		自己点検・自己評価の継続	自己点検・自己評価の結果を子育てネットワーク会議で報告し、議事録を館内廊下に掲示公表している。
	3 地域の自然や社会との関わりを深める	姉妹園・学童のみでなく、地域の小学校・保育所にも情報発信し、行事参加を促す	行事のおたよりを各園で配布していただき、広報に努めた。
		地域の公共施設及び関係者（子育てネットワーク会議等）・小学校との連携を図り、地域に密着した支援を行っていく	子育てネットワーク会議にご参加いただき情報交換をする機会をもつことで、互いの組織の強みを知り、顔の見える連携が取れるようになっていく。
		ボランティアを積極的に受け入れ、本人と児童館利用者双方にとって有意義な機会となるよう調整を図る	八海高校の福祉科が廃止となり、ボランティア希望者が減少している。今後は有償ボランティアの募集も検討したい。
	4 環境教育の活用、定着	学童保育に畑を活用し、自然体験・エコ活動につなげる	クラブごとに畑の区域を分け、各クラブの活動の中で子どもたちと一緒に畑仕事に親しむ機会を作った。
		水光熱費、ごみなどの無駄をなくし、現在ある設備を有効活用することで経費削減を目指す	各教職員が経費削減については意識している。
	5 その他	児童虐待防止のため、児童相談所等の関係機関と十分な連携を図る	各教職員が関係機関を把握しており、必要に応じて報告・相談することができる。
	目標	月一回日曜日に開催する児童館行事（50人定員）を地域に広く情報発信することで新規利用者を増やすとともに、学童児童の講座・教室への参加を促す（約18人・学童児の30%参加を目指す）	
学童フェスティバルを年度末に開催し、保護者や地域の方々に学童保育の内容を知っていただく			新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。
水光熱費+ごみ処理費用+消耗品費の削減、（前年度比95%）を目指す			ほぼ例年並みであった。
	件数	内容	対策
事故	1	放課後児童クラブの3年生が、指導員にエアートランポリンに投げ入れてもらって遊んでいた際に、うまく着地が出来ず、右腕上腕部を骨折した。	遊具の対象年齢を確認し、対象年齢でない遊具は使用せず、遊具の使用目的に合った遊び方をするようにした。
苦情	0	なし	

令和元年度 社会福祉法人若葉会 施設別 年間事業報告

施設名( 塩沢デイサービスセンターゆきつばき )

項目	内 容		具体的方策			
基本的な考え方	私たちは、地域の児童・高齢者の皆さまのより良い生活の実現を目指し、時代の流れの先にある私たちにはかたがたに出来ないこと、私たちだから挑戦しなければならないことを適時・的確に捉え、自立した地域社会の一員としての自覚と、幼児教育と福祉サービスの先駆者としての誇りを持ち、果敢に提言、実践を行い地域の幼児教育と福祉の向上を図ります。		地域から頼りにされるデイサービス運営と土地購入並びに有効利用			
理 念	私たちは、ご利用者の皆様がゆきつばきでの生活を思う存分楽しんで頂けることを願っています。					
項目	内 容		具体的方策		評価・反省	
年度基本方針	1	利用者一人ひとりが心身ともに健康で望む暮らしを続けられるような支援を行っていく。	日常生活を営むにあたり必要な機能の維持や向上を図り、介護度を上げずに、ご本人はもとより地域やご家族の負担の軽減に繋げる。	入所待ちだった利用者が入所されたり、介護者であるご家族が家庭での介護に限界を感じ、群馬の施設や小規模多機能型のサービスへの転換がみられた。そんななか、サービス転換後にゆきつばきの方が良かったという声も聞かれ、一定の評価は得ていると考える。		
			レクリエーションだけでなく、利用者ができる『仕事・作業』にももっと目を向け、利用者が自らの能力に気づき、前向きになれるような支援にも力を入れていく。	系列施設の園児(卒園生)へのプローチや、クリスマスプレゼント作成を行った。また、施設のスノーダンプの蠟塗り作業を行い、達成感を得られる機会が少しずつ増えてきている。		
			ADL維持加算の算定を目指す。また、介護処遇改善加算をⅡからⅠに変更する。	介護処遇改善加算についてはⅡからⅠに引き上げる。育児休業中であった理学療法士の復帰が予定されており、ADL維持加算や個別機能訓練加算の算定を図っていく。		
	2	地域に密着した施設として、法人内の幼稚園・保育園との交流や地域のボランティアの受入れはもちろん、ゆきつばきの日頃の様子を広報紙やブログなどで地域に発信することに力を入れ、地域からの信頼を得るとともに、ゆきつばきの需要を高める。	法人内の幼稚園・保育園の園児との交流を教職員と連携し、より充実したものにする。	定期的に幼稚園・保育園交流を行っている。今後も継続して、より充実したものを追及していく。		
			ボランティアの受入れなど、地域住民皆様から足を運んで頂き、地域に開かれた施設として信頼を得ていく。	地域のボランティアの受入れでは、昨年度新たに掃除に来てくださるようになった。地域に支えられながら運営できていることに感謝し、より地域貢献に力を入れていきたい。		
			ゆきつばきの特色が分かるよう、行事や日頃取り組んでいることなどを地域に発信するために、年4回チラシを更新し、また毎月ゆきつばき便りやブログを更新していく。	チラシやお便り、法人の広報誌などで地域に発信している。		
	3	隣地の購入並びに有効利用。	ゆきつばきの利用者に加え、総合事業の利用者の増加に伴い、畑の拡張をすすめる。また、駐車スペースを数台分増やす予	畑やグラウンドの拡張に伴い、利用者だけでなく小規模わかばの園児にも活用してもらう予定。		
	4	「虐待防止の強化」	身体拘束、虐待、不適切ケアに対する組織的な取り組み方法を確立し、それらの発生防止、予防に取り組む。	虐待が疑われるケースについては、ケアマネなど関係者と連携を図っている。また冬季法人研修で改めて虐待、不適切ケアについて学習。職員のストレスを軽減するなど日々予防に努めている。		
	目標と成果	数値目標		実 績		来年度に向けての方策
		620/月 (年間：7,400)		590/月 (年間：7,080)		入浴やレクリエーションを中心とした従来のサービスを見直し、ご利用者自身が望むサービスを追及し、ご利用者の生活の質の向上を図っていく。
	件数	内 容		対 策		
事故報告	0件	なし。		大きな事故や苦情もなく安定した運営が出来ている。		
苦情申立	0件	なし。				



令和元年度 社会福祉法人若葉会 施設別 年間事業報告

施設名 居宅介護支援事業所 ゆきつばき

基本的な考え方	私達は地域の児童・高齢者の皆様のより良い生活の実現を目指し、時代に流れの先にある私達にしか担えないこと、私達だから挑戦しなければならないことを適時、的確に捉え自立した地域社会の一員としての自覚と幼児教育、福祉サービスの先駆者としての誇りをもち果敢に提言、実践を行い地域の幼児教育と福祉の向上を図ります。		
理念	住み慣れた地域で利用者が自分らしく生活できるように支援します。		
具体的方策	・これまで築いた事業所の信頼関係を土台とし、専門職としての資質向上を着実にしながら、他職種との連携を密にし安心して暮らせる町づくりに事業所として貢献する。		
項目	内容	具体的方策	評価、反省
年度基本方針	1 「職員の資質向上と安定した事業所の運営」	各種研修会への参加、地域包括支援センター開催の事例研究会への参加	資質向上を目的として各種研修会、包括主催の事例研究会への研修の参加を行い各人がスキルアップできた。
		事業所内勉強会の開催と事業所内のケアプラン点検	毎月ケアマネジャーの特集記事を読み合い基本的なアセスメント業務や医療知識などを学び合い業務に活かすことができた。
		運営基準に沿った業務内容の毎月の点検実施	各人が自分の業務の調整をとり可能な時間で点検の作業を行った。
	2 「新人職員育成」	事業所各職員が職員育成に取り組み姿勢をもち人材を育てる。	残念ながら新人職員の入職は得られなかった。
		指導者側のスキルアップ、研修会参加	主任ケアマネジャー研修会に参加しスーパービジョンについて学び事業所内の職員育成に活かすよう心掛けた。
		いつでも相談できる職場環境、雰囲気作り	事業所内でお互いの立場を理解し合い声を掛け合い一人に負担の行かないよう思いやりのある行動、言動を行った。
	3 「地域包括システム構築に向け率先し行動する」	地域包括支援センター、医療機関、地域の他居宅と話し合いの場を持ち地域の課題について話し合う。	包括主催の事例研究会にて話し合い今年度は民生委員との連携を図ることを目的として各人が各地域の民生児童委員の会に参加顔の見える関係作りを行った
		地域課題改善のための具体的な取り組みを前進させる。	具体的な事例を用いての地域作り、発展的な相談の機会を持つことはできなかったが包括支援センターとはいつでも相談できる合意は得られている。
		他職種、地域の方との連携を充実させるため研修会、MCS活用集会へ参加し顔の見える関係を作る。	他職種との研修会に積極的に参加、顔の見える関係作りを行った。MCS（メディカルソーシャルネットワークサービス）を活用し医療との連携も密にとれた。
	4 虐待防止の強化	虐待の事実が起きないように常日頃から本人、ご家族との信頼関係の構築に努力する。	ケアマネジャーとしてご利用者、ご家族双方の立場を理解し中立の対応での対応を行うように心がけた。
		早期発見に対処できるようにサービス事業所や地域包括支援センターと日頃から連携を密にする。	虐待の心配のあるご家庭については情報が得られた時点で居宅内で相談。すぐにサービス事業所包括にも相談を行し早めの対応未然に防げるように連携を図った。
		虐待防止に関する研修会に参加する。	法人の冬の研修会にて虐待について著書のある林田俊弘氏を講師にお招きし研修を受け、虐待は誰にでも起こりうることを学び各人が我が事として学ぶことができた。
	件数	内容	対策
事故報告	0		
苦情申立	1	ご家族の希望の時間に訪問を行わないことを機にケアマネジャー交代の希望があった。	包括支援センターに相談し他の居宅をご紹介した。
	数値目標	実績	来年度へ向けての方策
目標と実績	利用実績平均95人を維持する。	介護：977件 前年比 89% 予防：14件 11% 合計：991件 81% 平均：82.5人	・H29年に入職をした職員がまもなく3年の経験を積むことができ事業所としても確実な3人体制の基盤ができる。今後も盤石な土台を作ることができるようそれぞれが確実に経験を積んでいく。・今後地域のケアマネジャー不足が起きないように新人職員育成に取り組む。

令和元年度 社会福祉法人若葉会 施設別 年間事業報告  
施設名( 総合施設ゆきつばき )

理念		私たちは、ご利用者の皆様が住み慣れた地域でいきいきと暮らせるよう、心と身体の健康を支えます。		
項目	内容	具体的方策	評価・反省	
年度基本方針	1	機能訓練だけに特化せず、ご利用者のための付加価値を追求する。	ご利用者の感情や思いを受け止め、支援者として希望を叶えられるサービスを提供する。	ご利用者の希望を伺いながら、プログラムの充実を図ることができた。(リクエストメニューによる料理教室、手工芸、作品の展示、踊りや歌、着付けなどご利用者の特技を活かした行事の実施)意欲の向上につながっている。CMからも総合施設の特色を理解したうえで、新規利用者様の紹介、プランの立案をして頂いている。
			ご利用者の声を大切に、身体機能の向上を図り、生きがい・遣りがいを持てるサービスを提供する。	お一人お一人ご利用者の意向の確認が出来るよう毎月聴き取りを実施し、プログラムに組み込んできた。体力測定、基本チェックリストの結果は向上が認められる。介護度の向上は見られなかった点が今後の課題。
	2	小規模わかばやゆきつばき等、法人内の他事業所と連携を図りながら、円滑に送迎や料理教室等のサービスを提供していく。	送迎人員や配車など、送迎に必要な情報を共有するため、しっかりと報告・連絡・相談を行なっていく。	新規のご利用者が増えた場合や、お休みの方がいた場合はその都度報告をし、連携を図る事ができた。
			手工芸や料理教室、畑作業の計画をしっかりと行い、準備に要する時間や物品などを共有し、連携を図っていく。	畑はDS、小規模わかばと連携し、計画的に実施し、交流の機会にもなった。料理教室、手工芸についても連携し、作品展、バザーもスムーズに行なえた。
	2	地域に密着した施設として、法人内の幼稚園・保育園と連携しながら、総合施設ゆきつばきの需要を高める。	地域のニーズや制度の変化などの情報の把握に努め、地域に開かれた施設として、地域の福祉の充実に貢献する。	お便りによる情報の発信、市の口腔健康教室や見学者の受け入れも積極的に行った。今後もより地域に開かれた施設としてニーズの把握に努めていく。
			法人内の幼稚園・保育園の園児との交流を教職員と連携し、より充実したものにする。	納涼会、ハロウィン、忘年会等小規模わかばと連携して行事を行なった。お互いいい交流を楽しみにしている様子があり、意欲の向上にもつながっている。
4	虐待防止の強化	身体拘束、虐待、不適切ケアに対する組織的な取り組み方法を確立し、それらの発生防止、予防に取り組む。	虐待等の発生事例はなが、引き続き予防、早期発見、対応ができるよう努めていく。	
目標と成果	数値目標	実績	来年度に向けての方策	
	利用実績： 660(月平均55)以上	【H31年度】 平均7.0/月(年間：694) 稼働率70% ※週2回の営業。定員の空きは3月末の時点で水：1金：0となっている。更新で要介護になり終了になった利用者様はDSゆきつばきをご利用になるケースが多い。	引き続き安定した利用をして頂けるよう努める。ご利用者が増えた事で、細かなニーズに応え心身機能の向上につなげていけるようなシステムの確立を目指す。	
	件数	内容	対策	
事故報告	1件	体力測定のため、杖歩行のお客様がタイムを測定しながら職員1人付き添いで歩行中にふらつかれた。職員1人では支えきれず転倒。痛みや外傷なし。バイタルサイン来所時と変わらず。転倒後、歩行状態に変化見られなかが測定は中止した。	歩行が安定しない際は測定を行わない。手すり等が無い場所で測定を行う際は職員2人が付き添う事で同様の事故は起きていない。	
苦情申立	0件	なし。		

令和元年度 施設別 年間事業報告

施設名 ( 雲洞デイサービスセンターつばき園・雲洞グループホームつばき園 )

基本的な考え方	私たちは、地域の児童・高齢者の皆さまのより良い生活の実現を目指し、時代の流れの先にある私たちにしか担えないこと、私たちだから挑戦しなければならないことを適時・的確に捉え、自立した地域社会の一員としての自覚と、幼児教育と福祉サービスの先駆者としての誇りを持ち、果敢に提言、実践を行い地域の幼児教育と福祉の向上を図ります			
理念	「その人らしさを尊重します」			
	「笑顔で誠実な対応をします」			
	「地域との繋がりを大切にします」			
項目	内 容	具体的方策	評価・反省	
年度基本方針	1	「認知症に対する取り組み」	・利用者の「現在」に着目し、利用者本人がサービスの選択、決定、参画が出来る機会を提供できることを目標とする。	・利用者を中心とした「本人会議」などの開催を行い、サービスについての意向を確認する機会を少しずつ取り入れることができた。
			・各職員の認知症キャラバンメイト資格の取得を推進する。つばき園が主体となり、認知症サポーター養成講座を開催し、認知症の理解を地域に広める。	・令和元年度は、塩沢中学校1年生への認知症サポーター養成講座で講師として1名派遣。雲洞区のサロンで認知症講座の講師として1名派遣することができた。次年度も老人クラブに養成講座の依頼を受けており、開催する予定。
			・提供できるサービスの可能性を模索し、利用者のニーズに対する柔軟な対応を行なう。	・令和元年度中にサービス提供が困難な事例はなかったが、今後団塊の世代の求めるニーズに対応できるように、既存のサービスの枠にとらわれない柔軟な発想、対応の意識を職員全員で身につけていきたい。
	2	「職員の資質向上と人材育成」	・キャリアパスを活かした目標の明確化を行い、職員自身が意欲的にキャリアアップを目指せるような環境を目指す。	・今年度もキャリアパス内容の見直しを進めることができなかった。今年度中にスモールステップ等の設定を含めた内容の見直しを行いたい。
			・外部研修、内部研修へ積極的に参加し、自己研鑽に励む。	・外部研修では2名の職員が認知症介護実践者研修に参加することができ、専門的な学びを得ることができた。
		・自己点検、自己評価から抽出された課題を計画的に改善していく。	・体制変更に伴い、様々な課題が出ているが、自己点検の項目の中では特にケアプランについて変更を行ってきた。現在も既存の記録の見直し等を行い、試行錯誤を行っている。	
3	「雰囲気の良い施設作り」	・介護技術だけでなく、対人援助の基本となる接遇面においても、プロを目指し、つばき園に出入りする誰もが心地よいと感じる環境を目指す。	・職員間の思いやり意識の啓発や四季の飾りつけ、清潔感等環境整備を行い、雰囲気の良い施設づくりに努めている。	
4	「虐待防止の強化」	・身体拘束、虐待、不適切ケアに対する組織的な取り組み方法を確立し、それらの発生防止、予防に取り組む。	・令和元年度は冬期の法人研修で外部講師をお招きし、身体拘束、虐待の講義を受けることができ、理解、意識を深めることができた。法令を遵守し、定期的な会議の開催や研修により、身体拘束、虐待防止に対する意識を高めることができた。	
5	「運営改善と柔軟な職員配置」	・法令に定められた必要配置人員の確保を計画的に行なう。 ・施設内の連携を図り、無駄のない人員配置を行なう。 ・経費の節減に取り組む。 ・施設の特徴をアピールし、デイサービス利用者の増員、グループホーム入居待機者の確保を目指す。	・予定していた職員数の確保が出来ず、入居定員を計画的に増やしていくことができなかった。新規職員の確保は現状でも難しい状態である。今後も現在の職員を大切に、施設全体の質を上げていき、働きたいと思える施設にしていきたい。 ・グループホームの入居待機者について、平成31年度中はある程度の人数を確保できていたが、近隣グループホーム、特養等の回転率が以前と比較して早いので、各関連機関と連携を密に行い、入居希望者を常時確保できるように努めたい。	
目標と成果	数 値 目 標		来年度へ向けての方策	
	デイサービス 年間延べ利用者数 1900人	実績 H30年度：1625人 月平均：135人 R1年度：1062人 月平均：89人	・令和2年秋頃を目途にデイサービスの定員を6名から3名に変更する予定。グループホーム入居申し込み者に利用していただくなど、効率の良い運営を行っていく。	
	グループホーム 年間延べ利用者数 5475人(365日×15人)	H30年度：3104人 月平均：259人 R1年度：4484人 月平均：374人	・待機者を一定数確保しておくために、居宅介護支援事業所や医療機関との連携を密に行っていく。	
	件数	内 容	対 策	
事故報告	0件	事故報告なし		
苦情申立	0件	苦情申立なし		